

平成31年度 自己評価公表シート

認定こども園龍谷きくし保育園

1.本園の保育目標

認定こども園龍谷きくし保育園の保育目標は、「出逢い ふれあい 育ちあい 共に育む生きる力」です。様々なことに出逢える尊い経験は、子ども達の世界を大きく広げ、子どもたちの創造力を伸ばし、子ども自身の力で自らを発達させていくことでしょう。

2.本年度、重点的に取り組む目標・計画

平成31年度認定こども園龍谷きくし保育園、教育・保育課程における、教育・保育目標に基づいて自己点検・自己評価を実施することによって、保育者各自の課題・目標を掲げ、施設、教育、保育内容の改善に取り組んでいくことを重点項目とする。

3.評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
保育・教育課程の編成・実施に関して職員間で共通理解を図る。	保育所保育指針を職員間で共有すると共に、保育課程見直し箇所を整理し教育・保育課程の編成を行い、共通理解を図っている。
子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。	発達記録(見守る保育)を年に2回整理し、子どもの実態の把握に努め、保育の充実を図っている。
教育・保育の質の向上のために、職員会議・園内研修を充実させる。	定例の職員会議に加え、必要に応じて話し合いの機会を設けたり、研修報告を職員間で共有し、保育の質の向上に努めている。
保護者のニーズの把握に努め、要望や苦情などに適切な対応を行う	保護者からの意見を真摯に受け止め、改善すべき点については対応をした。記録を通じて、職員間で共通理解を図っている。
各研修会に積極的に参加して職員に資料提供をする。	各種研修会に参加し、研修報告として資料にまとめ、職員会議などにおいて提供し、共有化を図っている。
発達過程や状況を踏まえ「指導計画」を作成し、計画・実践・省察・評価・改善のサイクルを確立する	教育・保育の内容に関する全体的な計画を基に、発達過程や状況を踏まえ、指導計画から月・週・日と自らの保育を年間を通して計画し、実践の振り返りを行い、年に1度、各年齢ごとの評価項目に沿った自己評価を行っている。
園の財務状況を積極的に公開する	公認会計士により適正に処理されていると認められている。

4.具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
B	保育課程を基に保育を行い、保育の質を高めるための職員間の協働意識を、今後、更に高め、各保育者が子どもの発達過程をしっかりと理解し、各クラスとの協力体制を図り、今後は職員間の連携を強化し、充実した保育を実践していくようにしていきたい。

5.今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み
研修について	保育の課題や各職員のキャリアパス等を見据え、積極的に職務内容等を踏まえた体系的な研修計画を作成するよう努める。
記録書類の作成	保育の記録に加え、保護者との面談記録などの整備を行い、速やかに記録作成し職員間で共通理解を図れるようにしていく。
保育計画について	教育・保育課程に基づいた指導計画に基づき、新たな指導計画の編成に取り組み、保育のマンネリ化を防ぐ。

6.施設関係者評価

保育者の日々の努力に感謝いたします。
目標や計画に対して自己評価はまだまだ課題があるが、一つずつしっかりとクリアして保育を高めて欲しい。
ICTを活用した情報伝達の方法を進めて行けば業務効率が進むのではないだろうか。